

美桑が丘

小中一貫 学校教育目標「未来につむぐ 自分らしさの創造」

校訓『創造敬愛』

下川町立下川中学校
令和8年度学校だより
第5号 R8. 8. 31発行

学校祭で育てたい力

校長 永井 真二

7月28日、熊本県熊本地方を震源とする最大震度7の非常に激しい地震が発生しました。また、千葉県では8月13日夜から14日未明に線状降水帯の発生に伴う記録的な大雨による深刻な被害が発生しており、現在も懸命な復旧作業が続けられています。保護者や地域の皆様、また皆様のご親族やご友人の中に被害に遭われた方はいらっしゃらなかったでしょうか。

漏水の影響により一日遅れての始業式となりましたが、8月20日、校内に子どもたちの声が戻ってきました。やはり子どもが活動している校舎はよいものです。夏休み中も、部活動の練習や吹奏楽コンクール等を通して、子どもたちは充実した夏休みを過ごせたようです。何より事故やけががなく無事に始業式を迎えることができたことを、校長として大変嬉しく思っています。

始業式では、各学年の代表が夏休みの振り返りと2学期に向けた抱負を発表しました。私からは、1年生にはめりはりのある学校生活への期待と中学生としての意識の向上について、2年生には学校の代表としての自覚と仲間を意識した言動の責任の重さについて、3年生には進路の決定に向け、自分の未来を見据えた中学校生活の過ごし方について話をしました。

7月から学校祭の準備に取り組んでいます。「演劇班」「イベント班」「映像制作班」「会場装飾班」の4つの班から自分の「好き」や「得意」を生かせる活動を選択します。一人一人が積極的に取り組み、達成感を味わいながら、仲間とともに目標に向かって成長し合えることを目指して活動しています。

子どもたちを取り巻くこれからの社会は「マルチステージの人生」と言われています。デジタル技術の急激な発展やグローバル化、情報テクノロジーの変化により、社会全体の仕組みが常に変化し続けます。学校を卒業して就職し、一つの職場で定年まで働くという従来の人生モデルも大きく変化してきていると言われています。

学校には、未来社会を生きる子どもたちに、社会の変化に柔軟に対応しながら生涯にわたって学び続ける意欲と、多様な他者と協力しながら自分の人生を切り拓いていく力や粘り強さを育むことが求められています。学校祭の活動も、子どもたちは自分の思うように行かないことにも多く出会います。しかし、子どもたちが大人になった時に、困難な場面にも諦めず、挑戦心をもって人生を切り拓いていける人間になるための貴重な場だと捉えて教育活動に取り組んでいます。

本校の子どもたちのよさは何事にも笑顔で一生懸命に取り組める素直さです。学校祭では、当日の演劇や合唱、イベント等の発表だけではなく、子どもたちが活動に取り組んできた過程にも思いを寄せながらご覧いただけると幸いです。多くの保護者・地域の皆様のご来校を心からお待ちしております。

■吹奏楽部の活躍

8月2日(日)、吹奏楽部は、美深町文化会館COM100 文化ホールで開催された「第65回名寄地区吹奏楽コンクール」に出場しました。結果は銀賞でしたが、部員たちは日頃の練習の成果を十分に発揮し、一人一人が音楽に真剣に向き合い、心をつにした演奏で会場に感動を届けてくれました。

また、8月8日(土)の下川神社祭では、役場前において演奏を行いました。多くの地域の皆様に見守られながら、祭りに華を添える演奏を披露し、会場を盛り上げました。



■小中合同学習会

7月16日(木)、本校被服室にて、下川小学校と本校の特別支援学級による「小中合同学習会」を行いました。下川小学校の児童と引率の先生方、本校特別支援学級の生徒が参加し、交流を深めながら活動を行いました。

今回の学習会では、「透明モビールづくり」に挑戦しました。ラミネーターや色セロファンなどの材料を使い、夏らしい涼しげな作品づくりに取り組みました。児童生徒は互いに教え合ったり、作品を見せ合ったりしながら、楽しく活動を進めました。

また、一緒に作品づくりを楽しむ中で、自然と会話も生まれ、笑顔あふれる交流の時間となりました。

今後も小中学校の連携を大切にしながら、児童生徒一人一人の成長につながる交流活動を継続していきます。



■スマホ・ケータイ安全教室

7月21日(火)・22日(水)の2日間にわたり、全校生徒を対象とした「スマホ・ケータイ安全教室」を実施しました。ICT支援員の菅沼亮輔さんを講師にお迎えし、スマートフォンやSNSを利用する際に気を付けるべきことについて学びました。

教室では、生徒会が作成した「SNS利用ルール」を改めて確認するとともに、SNS上で起こり得るトラブルや長時間利用による生活への影響、被害に遭った場合の対処法などについて理解を深めました。

また、学年の発達段階に応じて学習内容を設定し、1年生は基本的なルールや危険の予測、2年生はトラブルの仕組みや他者への影響、3年生は自己責任による判断力や将来への影響について考えました。クイズや話し合い、自分自身の利用方法を振り返る活動を通して、情報社会の一員として責任ある行動の大切さを学ぶ機会となりました。



■郡上市との交流活動

8月21日(金)、岐阜県郡上市の中学生10名を迎え、「下川町・郡上市交流活動」を行いました。下川町と郡上市は、明治時代の入植をきっかけに120年以上交流を続けており、その歴史やつながりを学びながら親睦を深めました。

交流では、両地域の魅力や特色を紹介し合ったほか、「自分たちの町をよりよくしていくためには？」をテーマにグループごとに意見を交流する「中学生未来会議」を実施しました。また、郡上市の伝統文化である「郡上おどり」を体験し、郡上市の生徒の皆さんから踊りを教わりながら楽しく交流を深めました。



■おめでとうございます

- 第9回なよろひまわりカップソフトテニス大会
中学女子の部 準優勝 菅野・野崎ペア
- 第28回ジュニアサマージャンプ朝日大会
中学生女子の部 第1位 竹本 祐那
- 第10回クラレ高梨沙羅カップジュニアジャンプ朝日大会
中学生女子の部 第1位 竹本 祐那
- 第27回余市町全日本ジュニアサマージャンプ大会
中学女子の部 第2位及び最長不倒賞 竹本 祐那
- 第23回札幌市長杯荒井山ジュニアサマージャンプ大会
ミディアム・ヒル(中学生女子の部) 第1位及び最長不倒賞 竹本 祐那
- 第16回雪印メグミルク杯ジュニアサマージャンプ大会
ミディアム・ヒル(中学生女子の部) 第2位 竹本 祐那
- 2026ジュニアサマージャンプ大会北海道シリーズトータル賞
中学生女子の部 第1位 竹本 祐那

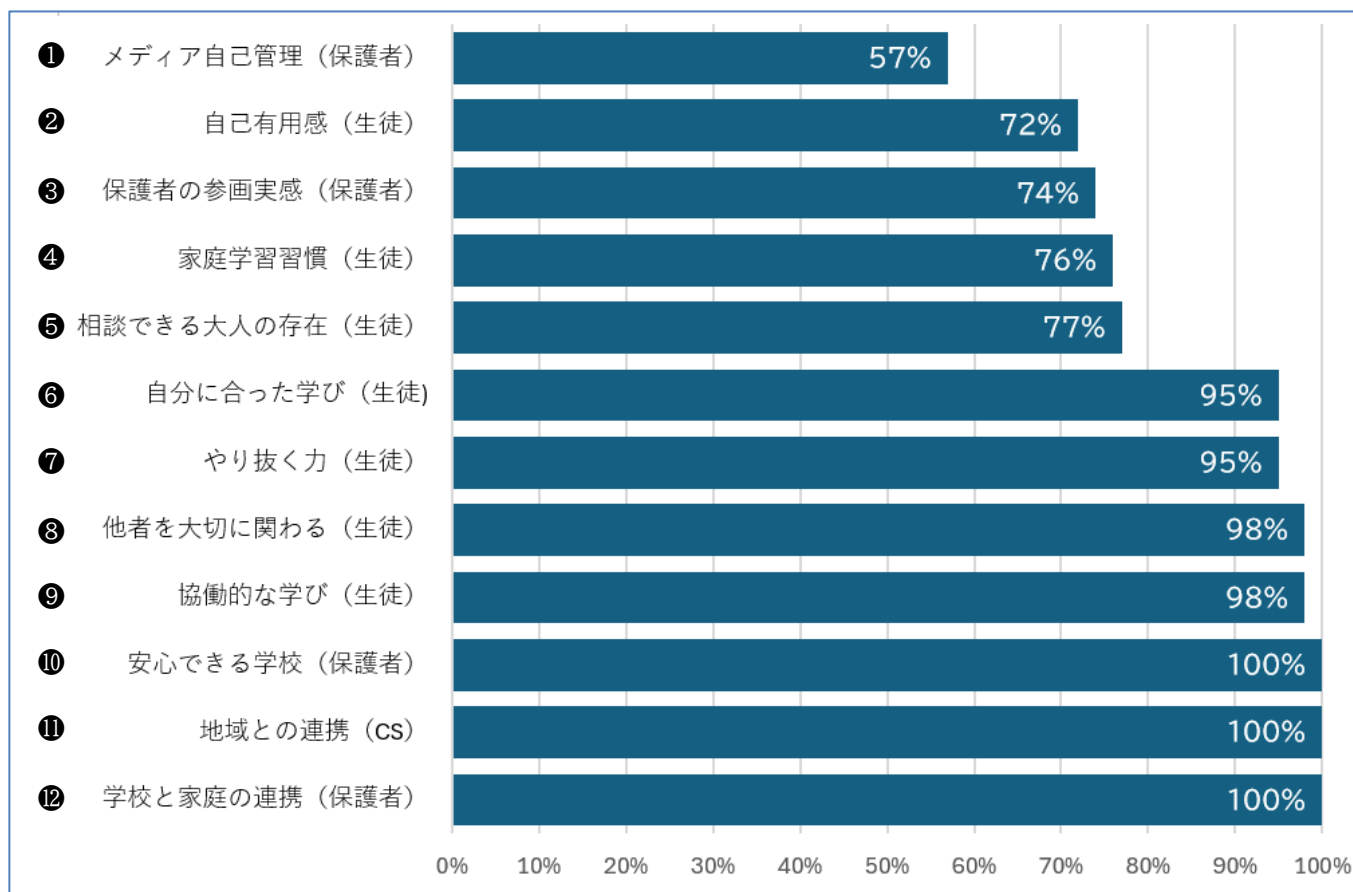
9月の予定

- 1日(火) 安全点検日
- 5日(土) 第80回学校祭
- 7日(月) 振替休業
- 10日(木) 学力テスト総合A
性教育(1, 2年)
- 14日(月) 職員会議
- 16日(水) 秋の避難訓練
- 18日(金) 常任委員会
- 24日(木) テスト前学習会(～29日)
- 25日(金) 生徒会役員選挙
諸費納入日
- 28日(月) 校内研修
- 30日(水) 上教研北部地区大会
臨時休業

■学校評価(中間)アンケート結果からの学校改善

6月29日(月)から7月8日(水)の期間に生徒、保護者、教職員、学校運営協議会委員の皆様へ学校評価アンケートを実施しました。その集計結果から見えた本校の姿と今後の教育活動の改善策をお知らせします。

1. 中間評価から見えた本校の姿



(1)協働的に学び、互いを尊重する学校文化

グラフ⑧「自分も相手も大切にしながら関わろうとしている」は98%、グラフ⑨「仲間の意見を参考にしながら学ぶことができる」も98%と極めて高い結果となりました。生徒の自由記述にも、「体育祭で協力できた」「友達が無けてくれた」「学年を越えて仲良く活動できた」などの声が多く見られました。

本校の強みは、単なる仲の良さではなく、「対話を通して学ぶ文化」と「相手を認め合う人間関係」が定着していることにあります。

(2)主体的に学ぶ力が育っている

グラフ⑥「自分に合った学び方やペースで学習できている」は95%、「授業で、自分の考えを整理したり、分かりやすく表したりすることができている」は95%でした。個別最適な学びやICT活用、協働的な学びが、生徒一人一人の主体的な学習につながっていることがうかがえます。

保護者からも、「考える力や伝える力が育っている」が 83%となり、生徒の成長を実感していただいています。

(3)安心して挑戦できる環境

保護者・教職員ともにグラフ⑩「学校は安心して通える環境づくりに取り組んでいる」が100%でした。また、グラフ⑦「最後までやり抜こうとする気持ちをもって学習に取り組んでいる」は91%という高い結果でした。

体育祭や部活動、学習活動などの様々な挑戦の場面で、生徒が達成感や成長を実感できていることが本校の強みです。

(4)家庭・地域との信頼関係

保護者のグラフ⑫「学校と家庭が協力して子どもを育てている」は100%、地域住民・CS 委員のグラフ⑪「学校は地域と連携しながら子どもたちを育てている」も100%でした。

下川町ならではの地域資源を生かした教育活動が、高く評価されていることが分かります。

2. 今後の課題と改善の方向

(1) メディアとの上手な付き合い方

アンケートでは、グラフ①「メディアの自己管理」に関する項目が最も低い結果となりました。

スマートフォンやゲーム、動画視聴などは、学習やコミュニケーションに役立つ一方、使い方によっては睡眠不足や学習時間の減少につながることがあります。学校では情報モラル教育を進めるとともに、生徒会活動や家庭との連携を通して、自分で考えて利用時間や生活リズムを整える力を育てていきたいと考えています。

(2) 自分の良さや役割を実感できる子どもの育成

グラフ②「自分は周りの人や社会の役に立っていると感じる」といった自己有用感に関する項目も課題として見えてきました。

学校では、子どもたち一人一人が活躍する場面を増やし、仲間や地域の方々との関わりの中で「自分にもできた」「誰かの役に立てた」という実感を積み重ねられるよう取り組んでいきます。下川町ならではの地域学習やボランティア活動も、その大切な機会になると考えています。

(3) 家庭・地域とともに創る学校へ

保護者の皆様からは学校との連携に高い評価をいただいている一方で、グラフ③「学校づくりへの参画実感」については改善の余地が見られました。

今後は、学校運営協議会(コミュニティ・スクール)や PTA 活動、各種行事等を通して、保護者や地域の皆様がこれまで以上に学校づくりに関わり、その成果を実感できる機会を充実させていきたいと考えています。

(4) みんなで子どもたちを育てる学校へ

下川中学校の大きな強みは、学校・家庭・地域のつながりです。安心できる環境の中で、子どもたちは仲間と協力しながら学び、成長しています。

これからも、「自ら考え行動できる子ども」「地域に誇りをもち、地域に貢献できる子ども」の育成を目指し、学校・家庭・地域が力を合わせて教育活動を進めてまいります。引き続きご理解とご協力をお願いいたします。

3. 保護者の皆様からのご意見・ご感想を受けて

先日実施した学校評価アンケートでは、励ましのお言葉や貴重なご意見を多数いただきました。今回は、その一部をご紹介しますとともに、本校の考えをお伝えいたします。

(1) 生徒一人一人の成長を支える教育活動について

「子どもの成長を楽しみに思える」「中学校生活が楽しいと話している」といった温かいお言葉をいただき、教職員一同、大変うれしく思っております。これからも生徒一人一人が意欲的に学び、自分のよさや可能性を伸ばしていけるよう努めてまいります。

また、定期テスト後の順位公表についてご意見をいただきました。本校では、自分の学習状況を客観的に把握し、今後の学習目標を立てるための一つの資料として順位を示しております。一方で、順位だけを重視するのではなく、生徒一人一人の努力や成長の過程を大切にすることが重要であると考えています。今後も、生徒の学習意欲の向上につながる評価の在り方について検討を続けてまいります。

(2) 学校からの情報発信について

保護者の皆様へのお知らせ方法について、「紙だけでなくメール等も活用してほしい」というご意見をいただきました。本校では現在、紙媒体を中心に情報発信を行っていますが、より確実に迅速な連絡方法については、町教育委員会や関係機関とも連携しながら検討してまいります。

また、悪天候や災害等による緊急対応時の情報発信についても、保護者の皆様に速やかに情報を届けられるよう、連絡体制の充実に努めてまいります。

(3) タブレット端末の活用について

GIGAスクール構想の推進により、学校と家庭をつなぐ連絡や学習活動において、タブレット端末を活用する機会が増えています。便利な一方で、「家庭でタブレットを気にする時間が増えた」「紙とペンでの学習も大切にしたい」というご意見もいただきました。

本校としても、ICTは学習を支えるための手段であり、目的ではないと考えています。タブレットのよさを生かしながらも、ノートに書く活動や紙の教材を活用した学習も大切に、バランスの取れた学習環境づくりを進めてまいります。また、家庭での負担感や端末利用の状況にも配慮しながら運用していきたいと考えております。

今後も保護者の皆様からいただいたご意見を大切にしながら、生徒にとってよりよい学校づくりに努めてまいります。引き続き、ご理解とご協力をお願いいたします。

※ 学校評価(中間)のすべての質問項目の結果一覧については、マチコミ配信でお知らせいたします。